

平成29年度

視聴覚教育のあゆみ

第54号

愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会

ごあいさつ

愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会長
愛知県立知多翔洋高等学校長
富田 祐司

会員校の皆様には、平素から本研究協議会の活動に格別のご支援とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、平成30年3月末に高等学校学習指導要領の改正が告示されました。そこには、「社会に開かれた教育課程」「知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランス」「高大接続改革」という基本的な考え方が示されています。また、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」、いわゆるアクティブラーニングの活用という考え方や、カリキュラムマネジメントとして、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成のためには、教科等横断的な学習を充実させる必要があると記されています。さらに、総則には「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等」の育成を図るために、「各校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること」と明記され、小中高一貫した、ICT活用教育の重要さが盛り込まれています。

教育現場における最近の取組事例からは、ICTを活用することにより、距離・時間の制約を超えた情報の活発な交流や瞬時の共有化、思考の可視化が可能になることや、問題解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現、個々の能力・特性に応じた学びの実現、地理的環境に左右されない教育の質の確保ができることなどが成果として報告されており、今後ますます学校と教育の情報化の果たす役割をしっかりと認識し、教育実践を重ねていくことが求められています。

今年度も、6月にNHK杯全国放送コンテスト愛知県大会、1月には愛知県高校放送コンテストジュニア大会が行われました。全国大会を目指し、日頃の練習の成果を十分に発揮して、真剣に本番に臨む生徒諸君の姿に感動するとともに、その陰には生徒諸君の指導に情熱を傾けられている先生方の存在があることを感じ取ることができました。

本誌は、平成29年度の本研究協議会の活動をまとめたものです。全県を対象とした技術講習会、県内5地区で実施した地区研究会での成果発表や提案等を掲載いたしました。視聴覚機器や放送番組をうまく取り入れながら、魅力ある授業や教育活動を実現していくために、本誌がその一助となれば幸いです。

最後に、本研究活動を企画し運営された皆様、また本誌「視聴覚のあゆみ」第54号の制作にご協力いただいた皆様をはじめ、多くの関係の皆様方に重ねて感謝申し上げます、ごあいさついたします。

目 次

ごあいさつ（愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会 会長 富田 祐司）

平成29年度高視協講習会報告	1
平成29年度高視協地区研究会報告	2
NHK番組研究委嘱のご案内	7
平成29年度愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会役員名簿	9
視聴覚関係組織図	10
愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会規約	11